

『なんでこんな』 作：ポチ子

奈々 「もう、だめだあ。」

謙介 「なに？」

奈々 「なんでこんな仕事できないんだろう。」

謙介 「また何かやらかしたの？」

奈々 「大事な資料にコピーは溢したし、その資料を印刷し直そうとしたらコピー機は壊すし、午後は取引先の頭にお茶ぶちまけるし……」

謙介 「最後のエピソード、中々にえぐいな。」

奈々 「もう、ほんとクビになるかもしれん……いや、いつそのことクビにしてくれ。私は、社会人として生きていけないんだああ。」

奈々、号泣する。

謙介 「そんな泣くなつて。お前、いつもやらかしてばっかだろ？

周りも慣れてるって。」

奈々 「うう……うわああああん。」

謙介 「あーあー……顔、凄い事なってるって。そんな泣いて

ると、明日、目腫れるぞ。」

奈々 「だって、だって。もう、明日から会社なんかいけない。恥ずかしくて死にそうだし、惨めだし、ミジンコだし。

新入社員より仕事できないし、同期はみんなして優秀だし。うううう。」

謙介 「んじゃ、どうする？思い切って辞める？」

奈々 「私が他の仕事についたとして、まともに働けると思うの？」

謙介 「まあ、思わないわな。正直。」

奈々 「ほらああ、謙介だってそう思ってるじゃんかあああ。」

謙介 「だって、取引先の頭にお茶はな・・・。」

奈々 「ううううう。」

謙介 「奈々、良い事教えてやる。」

奈々 「うう、なにに？」

謙介 「泣いても、明日は来るぞ。」

奈々 「うう・・・嫌だあああ。」

謙介 「ははは、面白い顔。」

奈々 「笑うな、バカあああ。」

謙介 「はいはい。冷たいタオル持ってきてやるから。このままだとホント目腫れるぞ。」

奈々 「明日、会社いかないもん！」

謙介 「毎回、そう言ってるって。どうせ行くんだから、大人し

く冷やしとけ。はい、今持ってくるから。」

奈々 「いらないもん！うわあああん。」

謙介 「はいはい、分かりました分かりました。タオル取りに行

くから離してください。」

奈々 「嫌だああ。」

謙介 「はー・・・今日は一段と凄いな・・・。」

— 終わり —